

上田仮説サークルニュース		4月例会	2016.04号
編集責任 遠藤 裕		発行2016.5.28	
〒383-0041 中野市岩船426-3 サカガーデン中野 B-G		TEL 0269-23-2847	携帯 090-1406-9115
メール endo-h@cronos.ocn.ne.jp		勤務先 長野工業高校	TEL 026-227-8555

4月23日(土) 上田中央公民館 3F第1・第2会議室
午後3:00～9:30



参加者数10名
資料総ページ89ペ

<参加者> 柳沢克央さん、渡辺規夫さん、増田伸夫さん、坂口富雄さん、
池田みち子さん、北村秀夫さん、北村知子さん、遠藤裕
小林眞理子さん、山本海行さん

はじめに 4月例会の参加者は10名。

発表は、柳沢さんから2本、増田さんから2本、渡辺さんから1本。合計5本の発表がありました。

柳沢さんは、「本を読む本」の紹介で20ページ、「読書メモ」で32ページにおよぶ資料を発表してくれました。

増田さんは<今月の書評(本の紹介)>1本、<牧:今月のお話>を1本。今月の書評は、池上彰・増田ユリア共著『世界史で読み解く現代ニュース』を問題(11題)形式で予想をしながら紹介。牧さんのお話は「起承転結の運動論」、いろいろな場面で応用できそうです。

渡辺さんは、「《不思議な石 石灰》の授業の感想」の紹介。専門学校の生徒さんの感想を読むと、とてもたのしい授業だったようです。

今回はもの作りで、小林眞理子さんと山本海行さんを講師として<霧箱>の作り方を教えていただきました。自分が作った霧箱で放射線の飛跡がたくさん見えたときは、すごい感動でした。こんなに簡単に見えるのかととても不思議な気持ちになります。放射線も身近な教材として生徒さんに是非見せたいと思います。

終了後、夢庵で夕食。(小林さん、山本さんと一緒に)



1. 発表資料

① サークルニュース 3月例会 遠藤 裕 (10ペ)

1. 発表資料

① サークルニュース 2月例会 遠藤 裕 (9ペ)

- ② 読書メモ 2016年度2・3月 柳沢克央さん（16ページ）
—中島みゆきからヒトラーまで—
- ③ 紹介：朝日中高生新聞 柳沢克央さん（2ページ）
朝日中高生新聞（2016/2/21）の紹介。
- ④ 私の白衣論 柳沢克央さん（2ページ）
白衣についての柳沢さんの持論の紹介。
- ⑤ <今月の書評(本の紹介)8> 増田伸夫さん（16ページ）
全面戦争を避けつつ権益を拡大する新しい戦争の時代
- ⑥ <牧：今月のお話10> 上手な負け方 増田伸夫さん（8ページ）
—撤退の秘訣—
- ⑦ <牧：今月のお話1> 「楽しいから」だけでは答えにならない 増田伸夫さん（8ページ）
—仮説実験授業の社会的使命—
- ⑧ 実験 電流と電圧の測定 渡辺規夫さん（2ページ）
実験プリントの紹介。
- ⑨ 『運動論いろは』の「ふりの客もお客」 渡辺規夫さん（4ページ）
牧衷さんの「運動の心得」の授業・生徒への応用の紹介。
- ⑩ 特派員報告 半導体と導体の違い エナジースティックを使って判定する 渡辺規夫さん（2ページ）
半導体と導体の違い エナジースティックを使って判定する
- ⑪ 真理は実験により決まる 渡辺規夫さん（1ページ）
信州大学理学部創立50周年記念誌原稿の紹介。
- ⑫ 授業書《燃烧》2016年3月版を印刷しますを読んで 渡辺規夫さん（4ページ）
授業書の印刷に対する批判。
- ⑬ 授業書案 変圧器 渡辺規夫さん（8ページ）
授業書案<変圧器>（試案第1案）の紹介。

② 「本の紹介」、「書評」、「書評の紹介」の三つを一緒に

『本を読む本』

柳沢克央さん（20ページ）

柳沢さんの本の紹介・書評とネット上にある書評の紹介。

モーティマー・J・アドラー チャールズ・V・ドーレン共著
外山滋比古・槇未知子共訳

『本を読む本』 原書名 “How to Read a Book”

（講談社学術文庫・920円＋税）

タイトルの通り，この本は読書法の本である。しかも，「非常に律儀で，極めて論理

的な教則本」とでも言うべきものである。初版は米国で 1940 年に出版された。

この本は 2016 年 1 月 27 日（水）に恩師、戸田忠雄先生より紹介された。紹介してもらって本当に良かったと思う。今までこの本を知らずに読書をしていたことが残念でならない。もっと早く知っていればよかった。学士・修士・博士は本書にある読書法を知っていることが必要である。

この本の「存在を知らずに」（注意：「読まずに」ではない。「知っていて読まない権利」は認められるべきであると思う）教壇に立つことは、運転免許証を持たずに高速道路で運転するに等しいくらい無茶なこと、または、デール・カーネギー著『人を動かす』の存在を知らずに教員を務めるくらい無謀なことであったと言うのはいささか勇み足か…。

ここに紹介して、未読の方に強く薦める。ただし、本書に書かれている方法のとおりには読書すべきだと言わない。本書を精読して、いったん忘れた上で、各自が自分の方法で読書をしていけばよいと思う。

<読書の四つのレベル>

レベル 1 「初級読書」・・・「その本は何を述べているか」が読み取れる段階

レベル 2 「点検読書」・・・「系統立てて拾い読みをする」

レベル 3 「分析読書」・・・「何よりもまず理解を深めるためのもの」

レベル 4 「シントピカル読書」・・・日本語で言えば「比較読書法」

<仮説関係の方に参考になる部分>

これを読むと、「板倉聖宣先生の提唱する研究法」＝「十万円研究法」はまさに本書に書かれている「シントピカル読書」であることがわかる。つまり、本書『本を読む本』の目指している最終到達点は、「自身の手で本や授業書を書く（著す）ことができるように目的意識を持って文献を読む」ことである。したがって、本書『本を読む本』は仮説実験授業研究会員の一定数の人にとっては、『本を書く本』（＝“How to Write a Book”）として読める本であるといえるだろう。本書から読み取れる読書の最高到達点は「創造」である。

書評は「バナナのたたき売り」のようなものであると思う。この紹介文をきっかけとして 994 円を支出して「バナナを買ってくれる」人が一人でもいてくれればうれしい。…バナナは時が経てば腐るけれど、本は腐りませんヨ。

（ネット上で公開されている<本書の構成>と<書評>が紹介されています。後者に、『本を読む本』で紹介されている読みかたは、知識を得ることが「目的」の場合に役に立つ。あるいは、特定のテーマを追いかけるときの「うまい読みかた」が記されている。」とあり、なるほどと思いました。仮説関係者には、興味を持たれる方が多いと思います。 エドワ

③ 読書メモ2016年3・4月 —佐藤優『人間の叡智』ほか— 柳沢克央さん (32ペ)

3・4月に読んだ本の「読書メモ」の紹介。

◇はじめに

前回の「読書メモ」と同様、サークルで発表することを目的とすると、読書がはかどるので、このメモを作成することにしました。自身のため、記録を残すことが第一目的です。みなさま、よろしく(適当に)おつきあい下さい。今までのものと同様に説明あり、引用あり、要約あり、感想ありで諸々が混交しておりますのでご注意を。(私物)と書き添えてあるもの以外はすべて篠ノ井高校図書室蔵書。

◇読書記録または読書メモ(順不同)

- ◎佐藤優著『人間の叡智』(文春新書 896・2012年)
- ◎齋藤孝著『考え方の教室』(岩波新書 1571・2015年)
- ◎奥泉光著『夏目漱石、読んじゃえば?』(河出書房新社・2015年)
- ◎池上彰・佐藤優共著『希望の資本論』(朝日新聞出版・2015年)
- ◎藤原和博著『本を読む人だけが手にするもの』(日本実業出版社・2015年)
- ◎忌野清志郎著『ロックで独立する方法』(太田出版・2009年)(私物)
- ◎久坂部羊著『ブラック・ジャックは遠かった—阪大医学生ぶらぶら青春期—』(新潮文庫・2016年)(私物)
- ◎犬塚清和他著『ホットレモン—子どもという希望—』(キリン館「萌文庫」・2004年)(私物)
- ◎上山晋平著『高校教師のための学級経営365日のパーフェクトガイド』(明治図書出版・2015年)(私物)
- ◎鈴木邦男・内田樹共著『慨世の遠吠え』(鹿砦社・ろくさいしゃ・2015年)(私物)

◇まとめ

別に紹介したアドラー&ドーレン共著『本を読む本』(講談社学術文庫)を読了し、3カ月がかりでの紹介と書評もようやく完成。よって、今回は特に自信を持って「堂々と本を差別選別」して読書を進めることができた。これが先月までの読書メモとの大きな違い。

自分には合わないものは合わないのだから、現時点では合わないことがわかれば、そこでためらわずに素早く本との「おつきあい」を打ち切りにした。人生は決して長くないから。(終)

(佐藤優著『人間の叡智』は、小見出しごとの要約約26ページ分あり、これを読むだけで本の概要がわかります。2012年の出版で、民主党の野田内閣の頃。予想が当たっているところがあったり、逆に予想が外れているところがあったりして、興味深かったとのこと。この本は骨格がしっかりしているから、大部分はまだまだ風雪に耐えられる内容だそうです。他の本は読んだときの所感が述べられています。 エドワ)

④ <今月の書評(本の紹介)9> 増田伸夫さん (12ペ)

「世界史もおもしろいじゃないか！」と思わせてくれる本

予想を立てながらの本の紹介。

☆池上彰・増田ユリア著『世界史で読み解く現代ニュース』(ポプラ新書)

(2014年10月第一刷発行 2015年5月第4刷) 定価: 本体780円(税別)

この本で著者たちが言いたいことをヒトコトでまとめるなら、「<世界史を知っていれば、現代のニュースが理解できる/現代のニュースから遡れば、世界史が興味深く学べる>」ということになるだろうか。本書はすでに書評を書いた池上・増田『世界史で読み解く現代ニュース<宗教編>』(ポプラ新書)の前に出た本。

著者の池上彰は、テレビでもおなじみのジャーナリスト。共著者の増田ユリアは長らく高校教師として社会科を担当。現在はコメンテーターとして活躍。

*

さて、今回もいくつか問題を用意しました。<それらの問題を考えてもらうことで、この本の紹介を試みてみよう>という趣向です。しばらくおつきあいください。

- ◇ヨーロッパから見たイスラム 【問題1】
- ◇インド航路 【問題2】
- ◇オスマン帝国とウィーン包囲 【問題3①】【問題3②】【問題3③】
- ◇世界最初のバブル「チューリップバブル」 【問題4】
- ◇聖地管理権とクリミア戦争 【問題5①】【問題5②】【問題5③】
- ◇トルコが親日的になったワケ 【問題6】
- ◇コンコルド広場 【問題7】
- ◇イラン・イスラーム革命とイランの核開発 【問題8】
- ◇自由な空気のフランス 【問題9】
- ◇ナポレオンの戦費調達 【問題10】
- ◇世界一の捕鯨大国だったアメリカ 【問題11】

本書も<宗教編>と同様に、現代史の背景を興味深く解説してくれ、<過去が現代にどのようにコダマしているか>を気づかせてくれる。特に「オスマン帝国」と「フランス革命」の章では多くの発見があり、「世界史もけっこうおもしろいじゃないか！」と思わせてくれた。

(問題を考えながら読むと、増田さんの「<世界史を知っていれば、現代のニュースが理解できる/現代のニュースから遡れば、世界史が興味深く学べる>」というヒトコトの紹介が納得できます。世界史を勉強しようという人にはお勧め本です。 エドワリ)

⑤ <牧：今月のお話2> 起承転結の運動論 増田伸夫さん（8ペ）

— 牧衷運動論入門 —

（上田仮説出版『牧衷連続講座記録集Ⅱ 授業論と運動論』「起承転結の運動論」より 1994/11/12 フォレスト軽井沢にて テープ起こし・編集：瀬在徳雄氏 再編集・文責：増田）

- ◇運動論には段階がある
- ◇運動における「起承転結」
- ◇主戦場をどこに求めるか
- ◇「転」の重要性
- ◇多数を獲得するためにはどうすればいいか
- ◇物理的な力では決まらない
- ◇運動方針も仮説・実験
- ◇社会的な声の力で勝つ

増田さんの<あとがき>より

「勝つための運動には起承転結という段階があって、それぞれの段階で心得ておくポイントがある。中でも「転」が重要だ」ということでしょうか。

この講演の続きで牧さんは、<成田闘争では「転」がなかったので運動が進展しなかったが、最近（1994年）の「すみゃ隅谷委員会」が「転」となるので「結」に近いでしょう>と予言され、実際その通りになりました（牧講演のテープ起こしをされた瀬在徳雄さんが<あとがき>の中でも触れられていますので、『牧衷講座記録集Ⅱ』もぜひお読み下さい）。 （増田）

（牧さんの運動論ですが、社会的な運動だけでなくちょっとしたことを行うときでも、この「起承転結」の考え方が参考になりそうです。特に教育現場では応用が広そうです。 エドワ）

⑥ 《不思議な石 石灰石》の授業感想 渡辺規夫さん（1ペ）

専門学校での授業アンケートの紹介。

《不思議な石 石灰石》の授業の生徒さんの感想より

- ◆見たりすることでとてもわかりやすかった。他の授業だと90分はつらいときがあるが、とても楽しかった。一年間ありがとうございました。
- ◆実験とかをしてくれて、わかりやすかったです。一年間ありがとうございました。
- ◆化学は難しく苦手でしたが、実験しながらとてもたのしくできました。ありがとうございました。
- ◆いろいろな実験をしながら授業をしてもらえたので、すごく楽しかったです。
- ◆カルシウムは単体では存在しないことを知った。CO₂ や O₂、H₂O などと結びつき

変化することを知った。

◆石灰石にこのような可能性があるのは初めて知った。実験も楽しかった。

渡辺さんのコメント 感想文未記入 3 名（テストと同時のアンケートのため時間不足と思われる）聞くと高校の化学の授業では実験をしたことがないと言っています。やっても印象に残らなかったのか、やっていないのか。実態はどうなのでしょうか。

（専門学校の生徒さんたち、実験とかがありとてもわかりやすい授業でたのしかったようです。 ㊦
㊦)

2. もの作り<霧箱> 講師：小林真理子さん，山本海行さん

渡辺さんが<霧箱>を作って実験したとき、うまく飛跡が見えず、原因を小林真理子さんに質問をしたことがきっかけで、今回サークルで<霧箱>作りを指導してくれることになりました。小林さん、山本さんには遠いところをおいでいただき、ご指導をありがとうございました。説明通りに作っていくと、いとも簡単にたくさんの飛跡を見ることができました。（説明通りに作るということが重要!!）山本さんには、<うみほしの部屋>という山本さんのサイトにある<霧箱で観察した放射線の動画や写真>を見せていただきました。また、小林さんには、イワシなどの魚の<干もの>とドライアイスの液化の実験を見せていただきました。（参考文献『たのしい授業 2016 年 2 月号』）





あとがき 4月例会では、小林さんと山本さんにく霧箱>の作り方を教えていただき、実際にたくさんの飛跡を見ることができました。家でやってみたいと思い、スーパーのイオンでアイスクリームなどの冷却用にもらえる粉状のドライアイスでやってみました。これでもうまく飛跡を見ることができました。ちょっと試してみるにはおすすめです。そして、山本さんに紹介していただいたガイガーカウンター< GC10 >をアマゾンで購入し、電源を入れては放射線の個数を調べてみたりしています。研究というよりは遊んでいるのですが。何か発見がありましたらご報告したいと思います。

職場では進路指導係の担当で、これから来客などで忙しくなりそうです。(エンドウ)

★ 今後の予定 ★
 6月25日(土)
 7月16日(土)
 8月27日(土)